Tokyo Kasei University

小野 智恵美　ONO Chiemi

健康科学部 看護学科　講師

乳がんの集学的治療を経験した女性のための妊娠・出産時支援モデルの構築

キーワード　がんサバイバー，がん看護，がん教育，乳がん，集学的治療

研究内容

がん医療は進歩を続けており，早期乳がん患者の 5 年生存率は 90％を超えています．また，生殖補助医療の発展も伴い，乳がんと診断を受けた方が，治療後に妊娠・出産への期待がもてるようになりました．しかし，乳がんの治療を無事に終えることができると，病院等への受診回数が減り，乳がんの治療を体験した女性が，医療者に妊娠・出産を相談できる機会が激減してしまいます．

現在は，乳がんの治療期を担当する乳がん看護と妊娠・出産を担当する周産期看護の連携に期待がされています．乳がん経験者が安心して，子供を妊娠・出産できるシステムの構築，臨床看護学の深化と発展に寄与したいと考え調査に取り組んでいます．

化学療法（輸液）の準備

がん教育の講義

関係論文，特許・著作物等の知財情報，連携の実績

- 抗がん剤治療を受ける患者の血管外漏出の現状と課題，小野智恵美他，看護技術 64(2)P178-182(2018.02)
- 乳がん集学的治療を経験した女性の妊娠・出産の困難を乗り越える要因，小野智恵美他，第 35 回日本助産学会学術集会，学会誌 34(3)P431(2021.03)
- 「がんを理解して支えあえる社会について主体的に考える」の取り組み，小野智恵美他，第 26 回日本臨床死生学会，抄録集 P52(2021.09)

社会連携・産学連携の可能性

- がんとの共存「がんサバイバーの生活を豊かにする取り組み」として提案や開発などの共同研究が可能です．
- 小学生・中学生・高校生への「がん教育」に関する共同研究が可能です．